

運営委員の日帰り研修旅行

平成 27 年 7 月 22 日（水）、運営委員 33 名が参加して、地区社協初めての日帰り研修旅行を行いました。



1) 牛久市の大型バスに乗って筑波実験植物園に

9 時 40 分、筑波実験植物園に到着、入り口で集合写真を撮ってから入場。

同植物園は国立科学博物館の 1 研究部門として 1983 年（昭和 58 年）に開園したとのことでした。女性ガイドに案内されての園内研修、ガイド付きの園内探索は理解しやすくていいですね。

「サバンナ温室」では、今一番見ごろだという花で、6 年ぶりに咲いたという「ダシリリオン・ウィーレリ」を見ることが出来ました。屋根に届くほどの高さに花をびっしりとつけた姿は見ごたえがありましたが、これが花？と思えるような地味な花でした。

ダシリリオン
・ウィーレリ



赤バナナ

バナナの花を始めてみました。雄花と雌花が離れているんですね。雌花から花茎が出ていてその先にとがった雄花がついています。今では雄花は生殖には無関係だそうです。

園内には絶滅危惧種の植物が多量に植えられていました。こんなに沢山あるのかと驚きました。キキョウもその一つなんですね。



絶滅危惧種・キキョウ



標本収蔵室

国立科学博物館の標本収蔵室ものぞきました。ここは植物でなく、動物の骨格が保管されている所です。すべて本物だそうです。ここから持って行って国立科学博物館に展示するんですね。

2) つくばみらい市古川の日本料理「ねぎしや」で昼食

刺身天麩羅定食を食べました。美味しかったと好評でした。



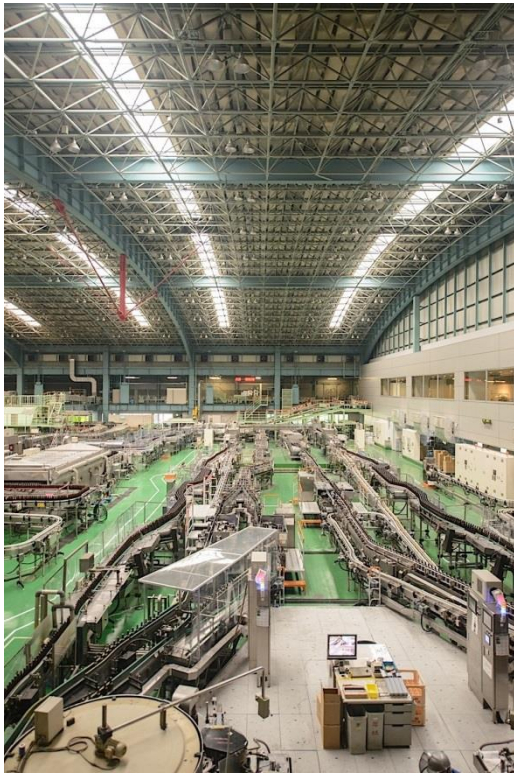
3) 守谷にある「アサヒビール茨城工場」に

午後は平成3年にオープンした茨城工場を訪問しました。

東京ドーム9個分の広さがある大工場です。ここではスーパードライやクリアアサヒなど6銘柄が作られています。また、出荷前に熟成するための熟成タンクは350ml缶



140万本が入るタンクで、このタンクが150本あるそうです。すごい量ですね。



製造工程は撮影禁止、残念でしたが止むを得ません。写真はアサヒビール・茨城工場のホームページに載っている写真を借用しました。びん詰、缶詰の工程です。

ビールの製造工程でビールを精製するときにはろ過材として珪藻土が使われているとのことでしたが、使用後の珪藻土は酵母かすなどとともに有機肥料として有効利用しているとのことでした。

また、製造工程の最後は厳しい社内検査に合格した検査員による官能検査です。この検査員の皆さん、朝からビール漬け、乗用車による通勤は不可です。徒歩や自転車、あるいはバスや電車を乗り継いでの出勤ということでした。ご苦労様です。

最後は、工場が一番高いところにある試飲室で、美味しいビールに舌鼓をうちました。

